

平成 30 年度 第三セクター経営状況確認シート ①～④を各団体で記入 ⑤を市所管課で記入

① 団体の基本情報	団体名	公益財団法人所沢市文化振興事業団				出資金	200,000 千円		設立年月日	平成4年7月23日		
					出資比率	100 %		所管課	市民部 文化芸術振興課			
	団体の設立目的	音楽、演劇をはじめとする優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供することにより、芸術文化と地域コミュニティの振興を図り、もって地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。										
	組織の状況 (平成29年4月1日現在)	役員数 (うち常勤数)					職員数 (うち常勤数)					備考
		プロパー	市現職	市OB	その他	合計	プロパー	市現職	市OB	その他	合計	
	0 (0)	4 (0)	1 (1)	7 (0)	12 (1)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	14 (14)		
市の関与 (財政的、人事的つながり) など	「所沢市民文化センター ミューズ(以下「ミューズ」)」の指定管理者として、所沢市からの指定管理料を財源に同施設の管理運営を行っている。当事業団が実施する各種自主事業(クラシック・ポピュラー・演劇・寄席等の主催公演やアウトリーチ事業)については、設立当初より利用料金制度を導入し、その収入(施設利用料金等)及びチケット料金収入等を財源として実施している。 人事的には、所沢市長が理事長であり、市現職が理事3名/監事1名、市OBが常務理事(兼事務局長)として在籍。副市長が評議員に在籍(評議員=全10名)。											
事業の具体的な内容及び実施方法	平成5年の開館に伴い、施設の管理運営及び地域の芸術文化の振興を図る財団法人として発足(25年4月に公益財団法人へ移行)、18年度からは指定管理者として同施設を管理運営(18年度より3年間、21年度より3年間、24年度より5年間、29年度より1年間)。事業の主な内容は以下のとおり。 ① 優れた芸術文化の提供・発信(音楽・演劇・伝統芸能等の自主公演等の実施) ② 文化振興を通じての豊かな社会づくり(まちづくりセンター、教育委員会等の連携によるアウトリーチ事業等の実施) ③ 貸館業務(親しみやすく利用しやすい施設運営により利用促進を図り、市民の芸術文化活動の活性化に資する事業) ④ 安全・安心で利用しやすいミューズの維持管理(利用者サービスの充実、施設の良い維持管理)											

② 財務状況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	経常収益		765,136,785	740,939,419	783,210,309	806,154,741
経常費用		804,741,838	749,795,330	780,615,013	789,393,874	776,233,548
経常増減額		△ 39,605,053	△ 8,855,911	2,595,296	16,760,867	29,449,364
総資産額		600,168,489	627,057,564	636,986,192	633,283,698	644,908,546
純資産額		392,163,436	383,307,525	384,952,996	401,713,863	431,163,225
市補助金		0	0	0	0	0
市委託料		465,685,000	479,710,286	480,430,286	481,150,285	492,395,000

③ 活動実績	項目名	単位	H25	H26	H27	H28	H29
			活動実績	ミュージズ 利用者数	人	448,454	454,316
	ミュージズ 施設利用率	%	83	82	83	84	81
	自主事業本数	本	90	86	92	96	96
	自主事業入場者数	人	68,404	56,115	74,326	66,209	68,286
改善内容	<p>◎引き続き、施設利用者・自主事業来場者にアンケートを実施し、ニーズの把握に努め、内容を精査し事業計画に活かしている。また、所沢市や地元企業、地域と連携した取り組みも積極的に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所沢市「空飛ぶ音楽祭」への協力 ・所沢東消防署の協力のもと、コンサート形式の避難訓練を実施 ・近隣の芸術系大学(日本大学芸術学部/東京音楽大学)と共催公演を実施 など <p>◎所沢市上下水道部との連携により、航空公園駅からミュージズまでの歩道に10枚のオリジナルデザイン・マンホールを設置するなど施設のPR活動に努めた。</p> <p>◎自主公演の実施にあたっては、企業より協賛金を獲得し、自主財源の確保に努めた。(宮田大(チェロ)公演)</p> <p>◎組織力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当業務及び部門の課題を抽出し改善を図るため、目標管理制度の運用を開始した。 ・職員の事務負担と時間外勤務の軽減を図るため、時差出勤制度を整備し、29年度より運用を開始した。 ・継続性ある安定した人員体制構築のため、有期雇用職員の正職員登用制度を構築した。 ・役員等の改選にあたっては、事業団運営の活性化を図るため、アートマネジメントの専門家や音楽、演劇の実演者、また、メディアに精通した方などが新たに就任した。 						

④ 事業概況	事業の経過及び成果	<p>・30年12月～32年3月に予定されているミュージズ大規模改修に伴い、開館以来運営に携わってきた経験と積み上げてきた記録を活かし、所沢市の改修計画策定に協力した。</p> <p>・30年度～33年度の4年間について、ミュージズの指定管理者として指定された。また、同期間中における運営方針を策定した。</p>
	対処すべき課題	<p>◎ミュージズ大規模改修に伴う長期休館への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休館中及びリニューアルオープン時における施設利用者への適切な対応(告知等) ・リニューアルオープン後を見据えたミュージズ施設外での効果的な自主事業の実施 ・休館による利用料金収入減への対応(繰越金や文化事業積立資産の取り崩し) ・所沢市、及び改修事業者との情報共有と連携の強化 <p>◎地域との連携事業の拡大、強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック、パラリンピックに向けた文化プログラムへの取り組みによる「所沢ブランド」の促進、㈱KADOKAWAとの連携 <p>◎事業実施における補助金、助成金の獲得</p> <p>◎組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の意見を事業団運営に具体的に反映させる体制の構築(役員体制の更なる充実、アドバイザー制度の見直し等) ・有期雇用職員の正職員登用制度の運用、及び事業団が安定して継続運営していくための適切な職員採用計画の実施

⑤ 所管課評価	
必要性の視点	文化振興事業団の設立目的である「優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供する」ことは、市の総合計画にも位置付けられた重要な施策に沿うものであることに加え、予定されている大規模改修に伴う休館に当たっては、利用者への周知・広報、ニーズの把握などを行うために必要となる市民との信頼関係を持つ文化振興事業団は引き続き必要であると判断できる。
効率性の視点	施設利用率は近隣施設と比較しても高い水準を維持しており、自主事業についても、本数の維持、事業内容の質ともに高い評価を得ていることに加え、経常収支も改善していることから、良質のサービスを継続的に提供している団体であると判断できる。ただし、大規模改修に伴う休館に当たっては、アウトリーチ事業の拡充や受付体制等人員の適切化が求められるなど特殊な運営環境となるため、継続して効率化を図っていく必要がある。
自立性の視点	過去には、経常費用が経常収益を上回る年度もあったが、平成27年度以降は解消されており、財務状況は改善の傾向に向かっていると判断できる。また、財団設立時より、財団の会計の中で調整できており、市の出損金を使うことや追加の委託料が発生していないことから、自立性・健全性は確保されている。ただし、大規模改修に伴う休館時には利用料金収入が見込めないため、文化事業積立金の活用等の創意工夫及び経費の縮減が求められる。